

教員育成に対する理念および認定課程設置の趣旨

● 教員養成に対する理念

社会的現実の提起する現代的な諸問題を、複数の学問諸分野の視点から具体的に解明し、かつ現代社会を新しい方法によって総合的に把握することを理念に設置している。学際性と専門性を兼ね備え、積極的に社会に働きかけて社会問題を乗り越えていく人材を育成することを目的としている。

以上を踏まえて、子ども社会専攻では次のような小学校教員の養成を目指している。

- ①「授業力」として、各教科の専門的内容を十分に理解して身につけた上で、児童の実態を的確に把握し、児童自身が学びを深められる授業を遂行できる力を有していること。
- ②「児童生徒理解力」として、児童を取り巻く環境を社会科学的な視点から理解し、一人ひとりの児童の生活や学びに必要な支援ができる力を有していること。
- ③「コミュニケーション力」として、児童・保護者・地域と丁寧なコミュニケーションをとるができ、信頼関係を構築できるとともに、同僚と日常的に円滑なコミュニケーションを図りながら協力体制を築ける力を有していること。
- ④「マネジメント力」として、児童一人ひとりを大切にしながら、長期的な視点での学級運営ができるとともに、学校全体における役割についても責任をもち、主体的に行動できる力を有していること。
- ⑤「教師としての自己形成力」として、現代社会の提起する諸問題に対する洞察力およびそれらを総合的に把握・分析するための社会諸科学の専門知識を有していること。
- ⑥「学び続ける力」として、多角的で深い知識を身につけ、専門的力量を向上させるために、学び続ける重要性を自覚し、研鑽を継続する意欲と実践力を有していること。

● 認定課程の設置の趣旨

児童や学校の抱える問題の背景や要因は複雑で、社会的文脈を踏まえて理解しなければ、問題の本質に迫ることはできない。現代社会に対する学際的で現実的な探究を通じて得られる知見やスキルを獲得することは、現代的ニーズに応える幅広い視野と深い洞察力・行動力をもった小学校教員養成にとっては不可欠の課題である。

産業社会学部では、国際社会の変化や地球的課題に関わる科目、ジェンダー、多文化共生、メディアリテラシー、スポーツ、まちづくり、特別支援教育などの科目を開講する一方で、現実の社会問題と直接向き合うアクティブラーニングを重視している。子ども社会専攻においては、そうした産業社会学部全体の教学と有機的に連携しつつ、教育職員免許法に定められた小学校教員免許取得に必要な科目を設置するとともに、「子どもと社会」「子どもの社会」にかかわる独自の科目を設置することによって、新しい時代の教員に求められる幅広い認識や社会性を養成することが可能である。

また、子ども社会専攻においては、理論的な研究に加えて、実践的、臨床的な力量の育成を重視している。そのために、充実した小集団教育や、学校ボランティア活動、京都市立小学校や立命館小学校と連携した教育実習や授業研究などの拡充などを図っている。これによって、今日の教員に求められる、コミュニケーション能力や授業力、使命感や協調性などを育成することが可能である。

以上の理由により、本学科に小学校教諭一種免許状の取得が可能な教職課程を設置している。